

『資本論』第22章第3節

剰余価値の資本と収入とへの分割、節欲説

月岡 大次郎
2014年5月15日

S.618 剰余価値の分割

- ・剰余価値=資本家の「収入」+資本として充用または蓄積される部分

S.618 資本の人格化としての資本家

- ・資本家の推進動機→使用価値と享受でなく交換価値とその増殖
- ・資本家の絶対的な致富衝動

S.619 資本家の私的消費と資本蓄積

- ・私的消費=資本蓄積から盗み取る (ジワター・アズ)

S.620 古典的資本家と近代的資本家

- ・蓄積の「節欲」としての消費→享楽衝動の「禁欲」としての蓄積

S.620 資本主義的生産の進展と致富、浪費

- ・資本主義的生産の進展は、投機や信用制度とともに、突発的な致富の無数の源泉を開く
- ・資本家「の浪費は彼の蓄積につれて増大」、一方が他方を中断させるのではない

S.620-621 マンチェスター工業の4区分

S.621 古典派経済学の定式

- ・「蓄積せよ、蓄積せよ！これがモーゼであり、予言者たちである！」

S.622 古典派経済学における資本家の歴史的機能

- ・マルサス—資本家→蓄積、土地貴族等→浪費

S.623-624 俗流経済学と節欲、労働手段

- ・労働過程のすべての条件は、資本家による、それと同じだけの節欲行為
→生産用具に労働力を合体させること=資本家自身の欲望を奪うこと

S.624-625 資本の蓄積、非資本主義的社会

- ・非資本主義的社会における、生産および拡大された規模での再生産

疑問点

・S.624 「単純な人道は、明らかに、資本家を殉教と誘惑から解放することを命じている」
単純な人道とは何か

・S.625 「かの奇妙な聖者、かの悲しげな姿の騎士」とは何か

・S.620 「富の誇示であると同時に信用の手段でもある世間なみの奢侈」、「奢侈が資本の交際費には入り込む」とあるが、(これは広告費の様なものであると考えられるが) 原論においてはそれほどの様に支出されるのか。